

# 「インフラDXコンペ」の参加技術を公募します

～11月9日「建設技術展2022近畿」でコンペを開催します～

国土交通省ではデータとデジタル技術を活用して、国民のニーズを基に社会資本や公共サービスを変革すると共に、業務そのものや、組織、プロセス、建設業や国土交通省の文化・風土や働き方を革新し、インフラへの国民理解を促進させ、安全・安心で豊かな生活を実現すべくインフラ分野のDXを推進しています。

この度、近畿地方整備局ではインフラ分野のDXに活用できる優れた技術を発掘し、技術開発を促進することを目的に「インフラDXコンペ」を実施します。

## 公募期間

令和4年8月8日(月)～令和4年9月9日(金)

## 公募概要

河川又は道路の改修・改築及び維持管理における「生産性向上」「安全性向上」「働き方改革」などインフラ分野のDXに資する先進的な技術を募集します。

応募された技術について、学識経験者を含めた審査会において予備審査(書類審査)を行い、10技術程度を本審査(コンペ)への参加技術とします。

コンペは、11月9日(水)「建設技術展2022近畿」の会場で実施し、3分程度の動画を含めたプレゼンテーションの結果、河川部門及び道路部門で各部門1技術を優秀技術として選定致します。

なお、優秀技術は近畿地方整備局が実施している河川及び道路事業において、試行フィールドを提供することを予定しています。

## 公募資料ダウンロードはこちら

1. 2022年度 インフラDXコンペ募集要領
2. インフラDXコンペ・応募資料作成要領

※公募資料は、近畿地方整備局近畿技術事務所のホームページ「インフラDXコンペ」より、ダウンロードできます。

[https://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/infradx-center/dx/infra-dx\\_compe.html](https://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/infradx-center/dx/infra-dx_compe.html)



近畿インフラDX推進センターでは、随時施設見学を受け付けております。ご興味のあるかたはぜひ、下記HPよりお申し込みください。

<https://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/infradx-center/application/index.html>

## 見学に際しての 注意事項

- ・施設見学は予約制です。見学ご希望日の1週間前までにお申し込みください。(ただし、土日祝日、年末年始は休館日となります。)
- ①9:30～10:30 ②11:00～12:00 ③13:30～14:30 ④15:00～16:00
- ・業務の都合ならびに他の見学申込み状況により、見学日時のご希望にそえない場合があります。その他、詳しくはHP記載の注意事項をご確認ください。



# 近畿インフラ DX通信

2022.08

vol.09

編集・発行

国土交通省 近畿地方整備局  
近畿インフラDX推進センター  
〒573-0166 大阪府枚方市山田池北町11番1号  
<https://www.kkr.mlit.go.jp/kingi/infradx-center/index.html>



- DX紹介 DXによる持続可能で安心・安全なまちづくり 京都市
- DX紹介 開催報告 インフラDXシンポジウム 一般社団法人近畿建設協会
- 情報発信 「インフラDXコンペ」の参加技術の公募について



# DXによる持続可能で安心・安全なまちづくり 京都市

## ◆ 維持管理業務におけるICTやUAVの活用

まちのなかで発見した道路の穴ぼこや公園遊具の破損などを投稿できるスマートフォン用アプリ「みっけ隊」を、市民の皆様とワークショップを実施しながら開発しました。投稿いただいた位置や写真の情報を基に管轄する事務所で補修等を行っています。また、清掃や除草などの自主的な活動を広く共有する「私たちがやりました」機能や特定のテーマについて調査を依頼する「ミッション」機能もあり、市民の皆様が維持管理に興味、関心をもって楽しみながら参加できる取組を進めています。

山間部の緊急輸送道路における土砂崩れの復旧では、被災規模や二次災害の前兆の有無等を短時間にかつ安全に把握することは、的確な応急復旧計画の立案、早期の工事着手、通行止めの解除、孤立集落の解消に必要です。頻発する豪雨などにより激甚化する災害に備え、現場の情報収集等を目的にドローンを配備し、市職員の操作訓練を行っています。



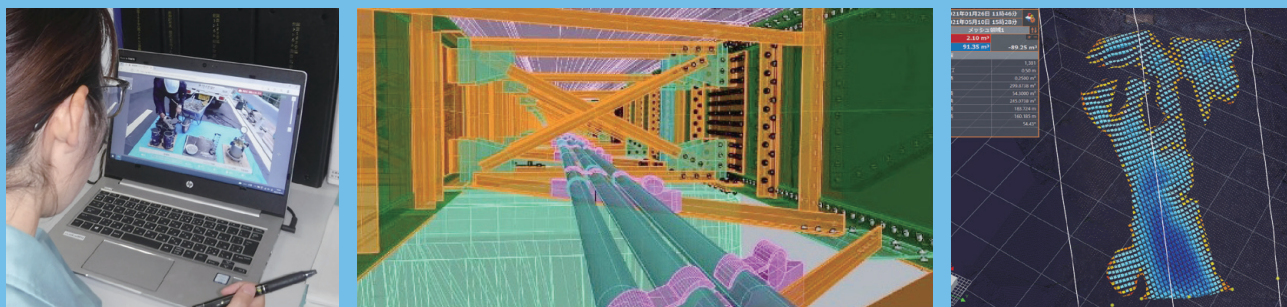
アプリのダウンロード案内画面

ドローン操作訓練

## ◆ 工事におけるICTやBIM/CIMの活用

工事書類のやり取りや現場移動における受発注者の負担軽減等を目的に、令和3年3月に、平成27年から活用している工事情報共有システムのガイドラインを改訂し、更なる利用拡大を推進するとともに、遠隔臨場についても要領を策定し、試行実施しています。

橋りょうの改修では添架管への接触の危険回避のために、既設橋りょうの3次元スキャンデータと新たに取り付ける部材の3次元モデルにより、部材の製作図の微調整や設置の検討を行いました。また、道路の災害復旧では急傾斜で長大なり面をドローンによる3次元測量を行うなど、作業の安全確保と効率化を目的に、施工業者の協力のもと3次元データを活用した施工に取り組んでいます。



遠隔臨場

橋りょう改修における部材の3次元モデル

災害復旧における3次元測量

京都市では、暮らし・まちのDXにより、橋りょうの耐震補強などの防災・減災対策や都市の活力を高める道路の整備などの公共工事における働き方改革を推進し、都市のレジリエンスを磨き、市民が主人公のまちづくりに取り組んでいます。

# 開催報告 インフラDXシンポジウム

一般社団法人 近畿建設協会

この度、「インフラDXシンポジウム」を日刊建設工業新聞社との共催、国土交通省近畿地方整備局の後援により開催しましたので、ご報告いたします。

インフラ分野のDXは2022年度を「挑戦の年」と位置づけ、官民で果敢な取り組みが進められています。本シンポジウムでは3Dデータを活用した官民の取り組み等を紹介し、生産性向上に不可欠な技術者の役割について考えるとともに、インフラDX推進に向けた今後の建設業界全体の取り組みのあり方を話し合いました。

当日、会場には行政、教育機関、建設コンサルタント及び建設会社等から約270名にご参加いただき、盛況裡に終えることができました。またオンラインでは約500名の方々にご視聴いただきました。

**日時**：2022年7月6日(水)  
13:00~17:00  
**会場**：ドーンセンター 7F ホール  
**主催**：(一社)近畿建設協会・日刊建設工業新聞社  
**後援**：国土交通省 近畿地方整備局  
**参加**：[会場]約270名  
[オンライン]約500名

## ■ シンポジウム冒頭

ご来賓として、国土交通省 大臣官房技術審議官 佐藤氏に本省よりオンラインでご挨拶いただきました。佐藤氏は本シンポジウムがインフラDX推進のための機運醸成につながることへの期待を述べられました。

## ■ 第1部 [DXの挑戦]

まず、国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長 岩崎氏に「インフラDXへの挑戦」と題して講演いただきました。岩崎氏は、建設業界における担い手不足やインフラの老朽化、大規模災害の頻発化等への対応策としてのインフラDX推進の重要性に言及し、ICT施工の普及やBIM/CIM活用の拡大に向けた取り組みについて紹介されました。また、各企業のDX推進をバックアップするためのICTアドバイザー制度やeラーニングについて説明されました。

続くリレートーク「DXに向けた企業からの挑戦」では、日本建設業連合会関西支部より大成建設の片山氏、OCF(CADソフトウェアベンダー団体)より福井コンピュータの村田氏、建設コンサルタンツ協会近畿支部より中央復建コンサルタンツの森氏にご登壇いただき、各企業や団体におけるDX推進の取り組みとして、データ利活用のための技術開発や連携、人材育成等についてご紹介いただきました。



国土交通省 大臣官房技術審議官 佐藤氏

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課長 岩崎氏



大成建設 片山氏

福井コンピュータ 村田氏

中央復建コンサルタンツ 森氏

## ■ 第2部 [パネルディスカッション]

「地域建設業からBIM/CIM施工への挑戦」をテーマとし、コーディネーターに立命館大学総合科学技術研究機構の建山教授、ICTに積極的に取り組む地域建設業の代表として道端組の道端氏、川嶋建設の松本氏、尾花組の谷口氏、吉川組の鬼武氏、近畿地方整備局 企画部 技術調整管理官の堤氏をパネリストにお迎えし、地域建設業の課題やBIM/CIM施工の導入、活用に向けた官民の取り組みについて討論していただきました。

パネルディスカッション後半では、近畿2府5県の建設業協会の会長、役員の皆様がオンラインでご参加いただき、建設分野のDX推進に向けて取り組むべき課題と今後の挑戦についての決意をお話いただきました。

建山氏は、官民それぞれの取り組みを結集することで、DXによる建設改革を実現できるとまとめられました。

